

単元まるごと計画「できることビンゴ・クラスのすごい人発見」(全8時間)

単元のゴール (can-do) : 自分や友だちのできること・できないことを Can you ...? / I can [can't] でたずね合い、クラスの「すごい人」を見つけて、最後に一言 He[She] can ~! で先生に教える (この言い方は次の単元でくわしく学ぶ・ここでは出会うだけ)。

評価規準 3観点 (国研参考資料の文型で作成)

知識・技能	Can you ...? / Yes, I can. / No, I can't. / I can [can't] などの表現について理解しているとともに、自分や友だちのできること・できないことについて伝え合う技能を身に付けている。
思考・判断・表現	クラスの友だちのことをもっとよく知るために、できることやできないことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。
主体的に学習に取り組む態度	クラスの友だちのことをもっとよく知るために、できることやできないことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

◎＝記録に残す評価 (方法つき)。◎のない時間は指導に徹し、記録に残す評価は行わない。

単元の流れ 全8時間

時	紙面	主な活動	帯 (毎時間のはじめ)	評価
1	SO	先生とALTの「できること・できないこと自慢」を聞く (can / can't に会う)	歌／チャンツ	記録なし
2	SO	動作の言い方練習 (絵カード) + できる? できない? 聞き分けかるた (活動1)	Small Talk①話題1 (先生のできること)	記録なし
3	YT	Can you ...? — Yes, I can. / No, I can't. のたずね方・答え方の練習	歌／チャンツ	記録なし
4	YT	ビンゴのマスづくり (できること9つを選ぶ) + 書きWS①	Small Talk①話題2 (できるようになったこと)	記録なし
5	EC	できることビンゴ大会① (活動2) → 中間指導	歌／チャンツ	◎ 行動観察 (知技)
6	EC	できることビンゴ大会② + 「クラスのすごい人」メモづくり	歌／キーフレーズ暗唱	◎ 行動観察 (思判表)
7	OH	世界の子どものできることを聞く (教科書OH) + すごい人発見の発表 → おわりにすごい人ランキング発表	歌／チャンツ	記録なし
8	OH	パフォーマンステスト (やり取り) + 単元の振り返り	なし——テストに使い切る	◎ テスト (知技・思判表) + 振り返りカード (態度)



45分の基本形と運用メモ

45分の基本形 毎時間この流れ（先生は上から順に使うだけ）

分	やること	使う教材
0-5	あいさつ・歌	—（教科書付属音源）
5-10	Small Talk／チャンツ	Small Talk台本①
10-15	語彙の練習	絵カード
15-17	めあての確認	—（黒板にcanの型を掲示）
17-37	主活動 ※途中で中間指導	活動シート1～2
37-45	振り返り（1行）・あいさつ	振り返りカード（汎用）

時間が足りないときは、ここを削る（優先順）

- 1. 聞き分けかた（第2時）は2回戦でやめる（3回戦のスピード戦は朝の時間や雨の日の予備に回せる）
- 2. ビンゴは「1列そろったら終わり」にしてよい（全マス埋めは時間が消える）
- 3. すごい人の発表は代表5人で十分（全員発表にすると第8時のテストが押し出される）
- 4. OHの世界の子どもは「1つ気づきを言えたらOK」に圧縮してよい

準備物 印刷するだけ（準備5分）

- ☐ 絵カード（提示用1部+かた用に班数分）
- ☐ 活動シート1～2（活動2は第5・6時の2回使うので人数分1枚でよい）
- ☐ 書きワークシート①（人数分）
- ☐ パフォーマンステスト式（先生用・第8時）
- ☐ 振り返りカード（汎用の型・単元名だけ書き換え）
- ☐ 黒板掲示用に「Can you ～?／Yes, I can.／No, I can't.」の短冊3枚

配慮が必要な子へ

- ・「できないこと」は言わなくてよい——言うか言わないかは本人が決める（先生が先に I can't swim. と言って、できないことを言うのは恥ずかしくないと示す）
- ・ビンゴのマスは絵でも日本語でもOK。英語で書けるかどうかは評価しない
- ・習い事・道具がないとできない動作ばかりにならないよう、カードには走る・とぶ・歌う・そうじなど「だれでも挑戦できる動作」を必ず混ぜてある
- ・聞き取りが苦手な子には、かたのとき先生の口元が見える位置に座らせる（can't の息の止まりは口の形で見える）

先生へ（この単元の勘どころ）

- ・この単元の地雷は「できること自慢大会」になること。ねらいは できることの数ではなく「たずね合って相手を知る」こと——第1時に先生が can't から自己開示して空気を作る
- ・can は弱く短く「クン」、can't は強くはっきり言って最後に息を止める。文法説明ではなく、先生が続けて2回言って耳で気づかせる（活動1がその装置）
- ・第6時の「すごい人」は上手さのランキングではなく「へえ、意外!」の発見。He[She] can を言う必然が生まれ、そのまま次単元U4の入口になる